

事業報告書

第X期

自 平成5年4月 1日

至 令和6年3月 31日

一般財団法人三光丸クスリ資料館

I. 一般財団法人設立後の状況

平成 26 年 12 月 8 日に一般財団法人三光丸クスリ資料館の設立登記を行って以来、今回で 10 期目の事業報告となる。

今期の事業方針は、公益財団法人への移行を視野に入れながら、①「見学者数増加、見学者の年齢層拡大」および②「出張展示、講演など積極的な館外活動の実施と、広報活動の充実」③「資料館活動による収入源確保」④「配置家庭薬、漢方薬、和漢薬および中世大和の国人越智氏に関する調査研究・資料蒐集および情報公開」⑤「文化支援・助成事業として社員研修棟・直心庵の活用」⑥「新型コロナウイルス感染症対策」に努めるというものであった。

以下、本年度の事業実績を列挙する。

II. 令和 5 年度事業実績（令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日）

1. 資料の蒐集、保管、公開

(1) 施設の開館状況

開館日数：271 日（昨年度 267 日）

入館者数：1,421 人（昨年度比+262 人、一昨年度比+198 人）

入館者のうち、10 人以上の団体見学者数は 573 人であり、全体の約 40%を占めている（昨年度は 43%）。団体の多くは学校関係（小学校 117 人、中学校 0 人、高校 97 人、大学生 0 人）および高齢者のサークル、ハイキング、ウォーキングなど。海外からの見学者は 5 人（韓国の薬学関係者）だった。なお、令和 5 年 8 月以降の男女比率は男性 424：女性 461 人（48：52）であり、女性の比率がやや高かった。

令和元年 12 月から始まった新型コロナウイルスによる感染拡大の影響については、5 類引き下げ後、個人・団体とも来館者数は回復傾向にある。

(2) 常設展示

まほろば館

※ 展示内容は昨年度とほぼ同じだが、見学者用の資料（印刷物）を増やした。今後は海外からの見学者増加が見込まれることから、英語、中国語（簡体字、繁体字）、ハンゲル文字による解説文も拡充を図っている。

※ 令和 4 年 5 月、映像コーナー「やうじゃう座」のナレーションに、子供向けバージョンを追加した。映像は今までと同じだが、女性ナレーターによる優しい口調で表現も子供にわかりやすいようになった。

こころの館

※ 庭に面した一角に椅子とテーブルを増やし、各種資料を置いて休憩・資料閲覧コーナーを設けている。さらに、「クスリ作り体験コーナー」には、新型コロナ対策として使い捨てのゴム手袋を用意している。

※ 小学校の社会見学、遠足は相変わらず多く、見学後に先生が学級新聞など生徒たちの感想文を持参してくださるケースも多い。それらを一定期間館内に掲示している。

(3) 企画展示

企画展示室

企画展示コーナーでは、平成31年4月以降、「大和売薬の源流を辿る」と題し、中世から近世に至る大和国の歴史を俯瞰しながら、越智氏、米田氏および興福寺と大和売薬のかかわりについて紹介している。

2. 普及啓発事業

三光丸クスリ資料館では、一般財団法人移行前から、地域社会への貢献を目的とした事業を積極的に展開してきた。このような活動は、江戸時代以降、長年にわたり大和の配置売薬業界を牽引してきた「三光丸」に課せられた重要な役割と考えるものである。主な活動は以下のとおり。

(1) 主な施設内活動

- ① 令和5年4月22日(土) 中国医学協会(会長:今中健二氏)による見学会を実施。協会員15人が来社し、工場資料館見学の後、情報交換を行った。
 - ② 令和5年4月27日(木) 日本メディカルハーブ協会主催「キハダ苗づくり&工場・資料館見学」を開催、農業法人ポニーの里ファームの協力により、キハダに関する講義(ポニーの里ファーム保科氏)と苗づくりおよび見学会を実施した。参加者は34人だった。
 - ③ 6月24日(土) ポニーの里ファームの協力を得てキハダ・ワークショップを開催、キハダ樹皮および葉の採取と資料館見学を実施した。一般参加者24人に加え、会社関係者、ポニーの里スタッフ、奈良県薬事関係者を合わせて59人が参加。
 - ④ 7月からそれまで実施していた来館者による芳名帳記入をやめ、来館者へのアンケート調査を開始。来館者の年齢、性別、見学の感想などを記入していただくことにした。なお、令和6年3月以降は新たな項目として入館料に関するアンケートも加え、入館料設定に向けて来館者の意見を参考資料としている。
 - ⑤ 11月16日(木)～19日(日) 資料館附属施設・直心庵にて陶芸家東川和正氏の作品展「玄彩展」を開催。平成21年の第1回開催以来、15回目となった。
 - ⑥ 11月18日(土)～20日(日) 「第21回関西文化の日」開催に協賛し、資料館を開館。今回は高取町の観光イベントに合わせて19日の夜、ライトアップを行った。両日の来館者78人(ライトアップの来館者60人含む)。
- ※ 8月の夏休み期間中、講演など資料館外でのイベント日および夏季休業日(盆休み)を除く土曜・日曜(5日、19日、20日、26日、27日)を開館した。期間中の来館者は15人(中学生以下4人)であった。

(2) 主な施設外活動

- ① 数年来行っている産学共同事業として、令和5年8月と令和6年2月の2度にわたり創造社デザイン専門学校(大阪市西区江戸堀)とタイアップ授業を行った。令和5年のテーマは「三光丸クスリ資料館のロゴ&マークデザイン」で、7月31日に資料館長が同校に行きプレゼンを実施、会社と資料館に関する説明を行った。8月24日(木)、

- 参加生徒 12 名による作品提出とプレゼンが行われた。これを受けて 9 月 25 日（月）・26 日（火）に社内選考会を実施し、最優秀作品賞 1 点、優秀作品賞 1 点を選出し、10 月 27 日（金）に同校において表彰状と記念品の授与を行った。令和 6 年 2 月のテーマは「ショッパーデザイン」（会社と資料館で使用する手提げ袋用）で参加学生 19 人。2 月 13 日（火）に同校にて会社側の説明会を実施し、27 日（火）に生徒による作品提出とプレゼンを行った。これを受けて 3 月 11 日（月）～12 日（火）に社内選考会を開催し、最優秀作品賞 1 点、優秀作品賞 2 点を選出し賞状および感想文を同校宛に送った。
- ② 三光丸創製 700 年を記念し、「三光丸 700 年史」（仮題）と題して三光丸および大和売薬、中世大和国の歴史を盛り込んだ歴史書を発行することとなり、現在原稿執筆中。制作担当は株式会社コミケ出版（大阪市北区天満）。
 - ③ 5 月 20 日（土） かづらき煌ネットワーク主催の歴史勉強会に出席、「葛城の中世は面白い」というテーマで資料館長が講演を行った。越智氏奉賛会からも米田徳七郎会長以下役員が参加した。
 - ④ 5 月 28 日（日） 宇陀市のイベント「薬草・発酵博覧会」に参加、うだアニマルパークにて「大和のクスリ」というテーマで資料館長が講演を行った。内容はセンブリ、ケイヒ、カンゾウ、オウバクなど薬草に関するもの。
 - ⑤ 6 月 2 日（金） 大淀町下淵の木下英子様からご寄贈いただいた三光丸の掛看板（かけかんばん）に関する調査にともない、大淀町教育委員会の松田度（わたる）学芸員に同行していただき、同町越部の秋山家本家を訪問し、江戸時代に作られた三光丸の看板移管する聞き取り調査を実施した。
 - ⑥ 6 月 5 日（月） 『月刊大和路ならら』の発行元・一般社団法人なら文化交流機構から依頼があり、「三光丸今昔物語」という演題で春日ホテルにおいて資料館長が講演を行った。
 - ⑦ 8 月 6 日（日） 奈良県コンベンションセンターにて「奈良の鉄道でめぐるお城・再発見 2023」（「大和鉄道まつり」と同時開催）開催にともない、「高取城の礎を築いた越智氏の興亡」というテーマで歴史講演をおこなった（参加者 20 名）。
 - ⑧ 9 月 16 日（土）～18 日（月） 大阪・天王寺の「あべの and」においてキハダ・ワークショップ（キハダ材を使い、ペンダント、キーホルダーを作る）を開催➡参加者約 50 人
 - ⑨ 11 月 12 日（日） 奈良市の今西家書院にて、「万葉集に見る古代のお薬事情」というテーマで講演を行った。主催者は「大和まちなみ文化塾」（塾長：阪本日出雄氏）。
 - ⑩ 11 月 25 日（土） 越智氏奉賛会「秋のフィールドワーク」を実施、かづらき煌ネットワークの協力を得て葛城地区を散策した。参加者 35 人。
 - ⑪ 11 月 28 日（火） 御所市「デイサービス・ときの森」にて講演。テーマは「昔懐かしい置き薬のお話」（参加者 40 人；高齢者の方々）
 - ⑫ 12 月 10 日（日） 奈良市興福寺の興福寺会館において講演。テーマは「南都仏教における製薬と施薬」（主催：大和まちなみ文化塾）参加者は 40 人。

(3) 広報活動

- ① 令和3年2月から、大和高田市を中心とした中和地区をエリアとするコミュニティFMラジオ局が開局した。三光丸クスリ資料館および(株)三光丸もこれに協賛しており、定期的に同局のパーソナリティーが資料館を訪問・取材を行っている。
- ② 奈良県では、「ならの教育応援隊」と称し、学校・園の教育活動を充実させるため、県内の団体・企業に向けて見学会の実施や資料提供を依頼している。当館でもこれに賛同し、学校の見学、出前授業に対応しているが、昨年より新型コロナウイルス感染拡大に対応する形で「zoomなどによる動画の配信」を提供する旨、県に申請・受理されている。これによって、見学を実施できない学校・園にも奈良県の配置薬、漢方薬に関する情報の提供が可能となった。
- ③ 奈良県産業政策課による新たな観光商品の開発に協力。奈良中部エリアのモデルコースとして「くすりゆかりの地を巡るコース」（桜井市・狭井神社～宇陀市松山地区～三光丸クスリ資料館）を設定、観光タクシーを利用した見学場所に指定されている。

3. 学術調査研究事業

継続事業として「大和売薬」「大和の薬」および三光丸の米田家、越智氏の歴史に関する調査研究を行なった。

大和の地では、古くから東大寺、唐招提寺、西大寺、興福寺などの有力寺院において庶民救済を目的とする“薬づくり”が盛んに行われてきた経緯があり、中でも藤原氏の氏寺として栄えた南都興福寺では、多聞院と呼ばれた子院しいんにおいて、医薬の知識を備えた僧侶たちがさまざまな薬を処方していたことがわかっている。

越智氏、米田氏は大和国における他の国人領主と同様、興福寺とのつながりが深く、家伝薬の製法も同寺から伝えられた可能性がある。

したがって、中世大和国における越智氏の動向を調べるのがすなわち、「大和の薬」の歴史研究につながるため、当館ではかねてよりさまざまな文献史料をもとに、越智氏に関する調査研究を継続的に行っている。以下、年度内の調査研究活動を挙げる。

- (1) 明治以降、昭和初期に至る得意帳の内容を精査し、当該期の得意先回りの実態を調査した。得意帳からは、取扱商品の種類と価格、代金の回収状況、回商頻度などのほか、得意先の分布状況、家族構成、健康状態などの情報も得ることができる。また、得意帳にはしばしば、次回担当者への申し送り事項や顧客とのやりとり、日々の雑感などが生々しく記されており、当時の世相や人情なども垣間見ることができる。このような資料は、日本人の生活史をたどるうえでたいへん貴重なものであり、研究成果を広く公開することが私たちの使命と考えている。
- (2) 『大乗院寺社雑事記』だいじょういんじしゃざうじき 『言継卿記』ときつぐきょうき など、中世の第一級史料をもとに、越智氏、米田氏に関する調査研究を継続的に行った。
- (3) 明治から昭和初期までに製造販売されたさまざまな配置薬に関して調査し、資料の写真撮影および画像データの蓄積作業を行なった。

- (4) 高取町の黄檗宗寺院・光雲寺では、平成31年から「越智氏奉賛会」を結成し、講演会やフィールドワーク、他の団体との情報交換等により越智氏に関する情報を収集している。結成以来、当館も積極的にその活動に参加し、中世大和国・越智氏に関する調査研究を共同で行っている。
- (5) 令和4年7月より資料館長が奈良県立大学・ユーラシア研究センターの客員研究員を委嘱され、同センターにて2か月に1回開催される研究発表会に出席している。今年度は、学術叢書『大和のリーダーたち』シリーズ3冊目を刊行する予定となっており、資料館長はロート製薬の創業者・山田安民（やすたみ/あんみん）氏に関する文章を担当している。

4. 資料館運営

理事会および評議員会を、下記のとおり開催した。

- ① 令和5年5月 定例理事会および定例評議員会を開催。議案は「事業報告」「決算報告」「監査報告」
- ② 令和5年8月 定例理事会は決議事項がなかったため、「資料館の活動報告」のみを理事・監事へ送付した。
- ④ 令和5年11月 定例理事会および評議員会を開催。議案は「活動状況」「中間決算報告」
- ⑤ 令和6年2月 定例理事会および定例評議員会を開催。議案は「令和6年度予算案」「令和6年度事業計画」「資料館の活動報告」

5. 課題・その他

- ※ 一般財団法人の設立以来、検討事項となっていた「入館料の設定」については、前期に引き続き実施保留となったが、令和6年3月以降、来館者にたいして適正と思われる入館料のアンケート調査を実施している。見学有料化による収入源確保は、将来にわたり安定的な活動をする上で必要なことであり、実現にむけて努力していきたい。
- ※ 平成24年度以降、奈良県では「漢方メッカ推進プロジェクト」と題し、薬用作物（生薬）の生産拡大と、関連する商品・サービスの創出まで一貫した体制の構築に力を注いでいる。これにともない、「大和のくすり」に関する貴重な資料を多数所蔵する当館の存在意義も大きなものとなっている。今後は、資料の調査研究成果を公開するなど、情報発信源としての機能を高めていきたい。
- ※ 新型コロナウイルスの感染状況については、現在やや落ち着きを見せ始めており、感染症法上の位置づけも5類に引き下げられている。しかし、人が集中する場所においては個人の判断でマスクなどの予防対策を講じる場面も多く、このような状況はまだ続くと思われる。当館では、生薬見本コーナーや薬作り体験コーナーなど、五感をフルに活用する体験型学習を目的とした展示が多く、展示物や器材の消毒など、感染防止対策が重要課題となっている。今後も、当館の特徴を生かしつつ、安心して見学していただけるよう、感染対策に工夫をこらしていきたい。

※ (株)三光丸は、2021年から「混交林誘導整備事業」に着手し、県および御所市の補助を得ながら里山計画を実施中である。具体的には、会社の裏山において、スギ、ヒノキなど針葉樹を間伐してクヌギやカシ、クリ、キハダなど広葉樹を植えて水害に強い山を作る事業である。同時に、資料館見学者が里山を散策できるように遊歩道の設置を計画中であり、当館としても積極的に応援していきたい。

以上